１．調査の目的

この調査は、市民と行政が一体となったまちづくりを推進するにあたり、市民の皆様の貴重なご意見やご要望をお聞きし、明日の豊橋市のまちづくりに反映させることを目的として実施しております。

２．調査の設計

（１）調査地域：豊橋市全域
（２）調査対象：市内在住の満 18 歳以上の方（日本国籍）
（３）標 本 数：5,000 人
（４）抽出方法：住民基本台帳から等間隔無作為抽出
（５）調査方法：設問紙を郵送。郵送または Web により回答。
（６）調査期間：令和 5 年 6 月 22 日（木）～7 月 19 日（水）

３．調査項目

（１）豊橋市に対する愛着度と自慢度について（問 1～問 3）
（２）中心市街地の活性化について（問 4～問 6）
（３）北部地域の活性化について（問 7～問 9）
（４）美術博物館について（問 10～問 12）
（５）中央図書館改修について（問 13～問 14）
（６）環境問題について（問 15～問 17）
（７）上下水道事業について（問 18～問 19）
（８）「緑」と「公園」について（問 20～問 21）
（９）自転車の安全な利用について（問 22～問 24）
(10) 運動やスポーツについて（問 25～問 27）
(11) 防災対策について（問 28～問 29）
(12) お住まいの地震対策について（問 30～問 32）
(13) 公共施設の利用と今後について（問 33～問 35）
(14) ヤングケアラーについて（問 36～問 38）
(15) 障害者差別解消法について（問 39～問 41）
(16) 多文化共生について（問 42～問 43）
(17) 市民協働によるまちづくりについて（問 44～問 46）
(18) 豊橋市における窓口業務及び行政手続きのオンライン化について（問 47～問 49）
(19) 地域の生活環境について（問 50）
(20) あなたご自身について（問 51～問 57）

４．調査機関

株式会社　総合交通環境リサーチ

５．回収結果

（１）回　　収　　数　：2,314 人（内 Web 回答　754 人）

（２）有効標本回収数　：2,313 人（全問無回答及び属性のみ回答の標本は無効とする。また、「紙」での回答と「Web」での回答が重複している場合は、「Web」での回答を有効回答とする。）

（３）有効標本回収率　：46.3％

６．報告書の見方

（１）集計結果はすべて、小数点以下第２位を四捨五入しており、比率の合計が 100％にならないことがある。

（２）複数回答を依頼した設問では、集計結果の合計が 100％を超える。

（３）回答比率（％）は、その設問の有効回答者数を母数として算出している。

（４）本文中の各設問の図中に示されている「n=○○」の数値は、当該設問の有効回答者数である。

（５）本文中の各設問の図中に示されている「n=○○」の数値について、「全体」と各年代の合計は必ずしも一致しない。その理由は、「全体」の中に年齢を回答していない人を含んでいるためである。

（６）本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化してある(原文は巻末参照)。

７．標本誤差の範囲の設定

本来、アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果を得なければならない。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要であり、その精度は標本誤差を算出することで把握できる。

標本誤差とは、ある設問の回答割合に対する誤差を示しており、これは以下の式で表すことができる。

$$\sigma = k\sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

Ｍ：母集団　　ｎ：有効回答数　　ｐ：結果の比率

ｋ：信頼度による定数　　σ：標本誤差

※ ｋは信頼度を決めると自動的に決まる定数で、信頼度は統計的な慣習として 95％とすることが多く、信頼度 95％ならばｋは 1.96 となる。

令和５年度の市民意識調査の回答結果について、回答者全体の標本誤差の範囲を設定すると、次表のようになる。

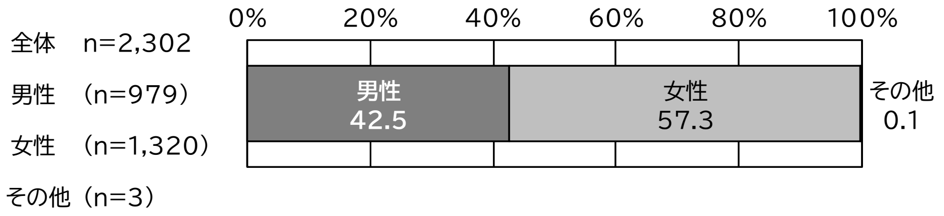
この表の見方であるが、例えば、今回の市民意識調査においてある設問を単純集計した場合、その設問で「Ａ」という回答が全体の 50％であったとすれば、市民意識調査の全母集団（市内在住の満 18 歳以上の方（日本国籍））に同じ設問をしても、統計学的には 95％の確率で「Ａ」は 50±2.03％の範囲内となる。標本の大きさは、ｐ（結果の比率）が 50％の場合が最も安全に（最も大きく）なるため、市民意識調査の全体の回答結果が最も分散していた場合でも、全母集団から得られる結果と比べて、±2.03％以下の誤差しか生じないことになり、かなり精度の高い結果といえる。

表　令和５年度市民意識調査における標本誤差の範囲

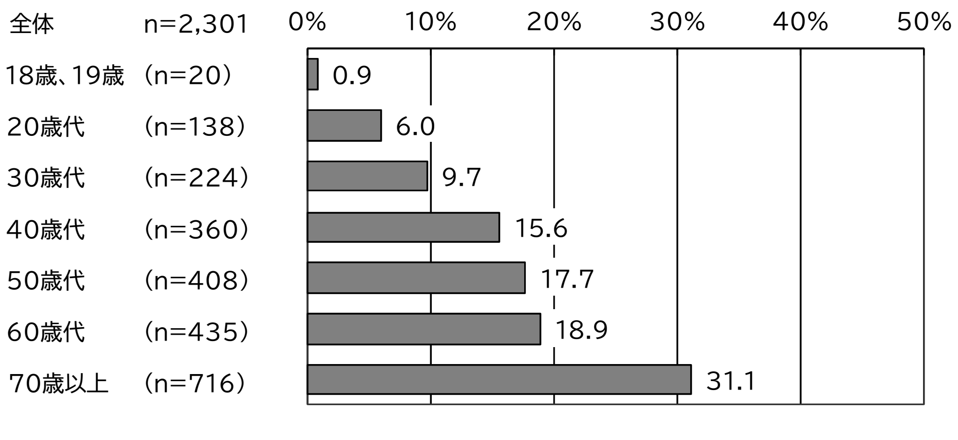
n＼p	90％または10％程度	80％または20％程度	70％または30％程度	60％または40％程度	50％程度
2,313	±1.22	±1.62	±1.86	±1.99	±2.03
1,500	±1.51	±2.02	±2.31	±2.47	±2.52
1,000	±1.86	±2.48	±2.84	±3.03	±3.09
500	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
300	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.66
100	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80
20	±13.15	±17.53	±20.08	±21.47	±21.91

８．回答者の属性

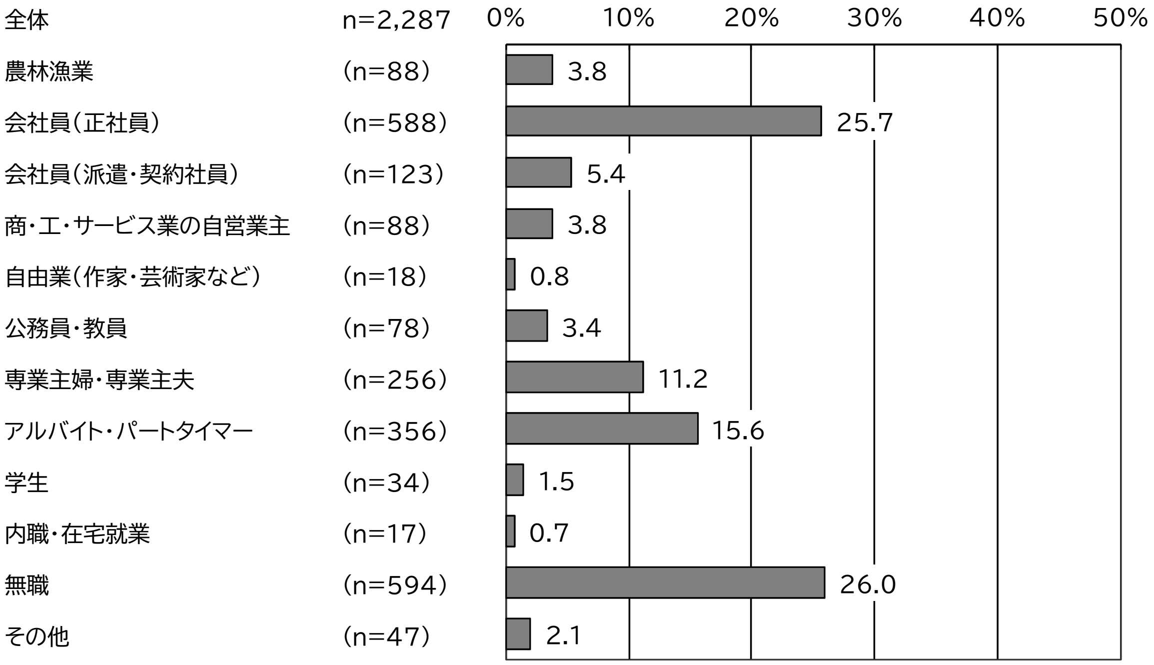
（１）性別



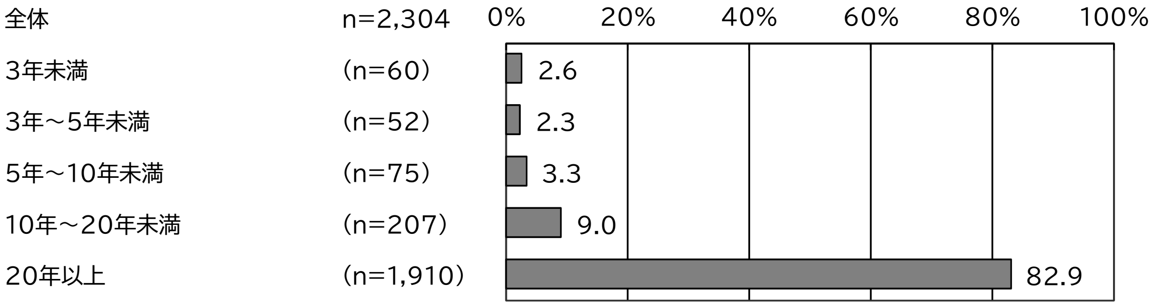
（２）年齢



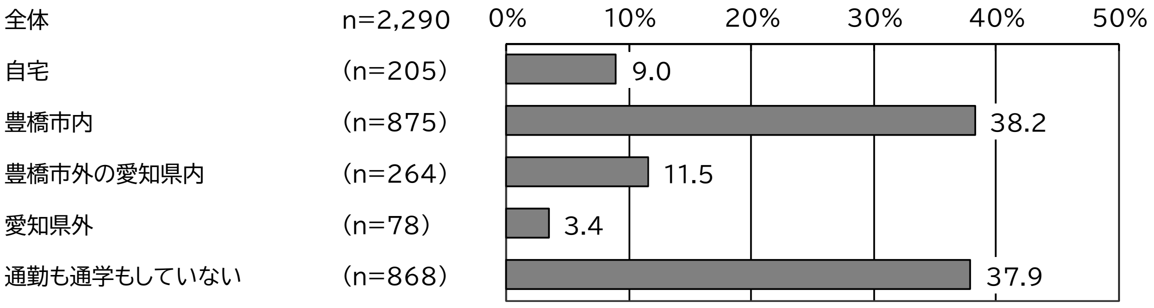
（３） 職業



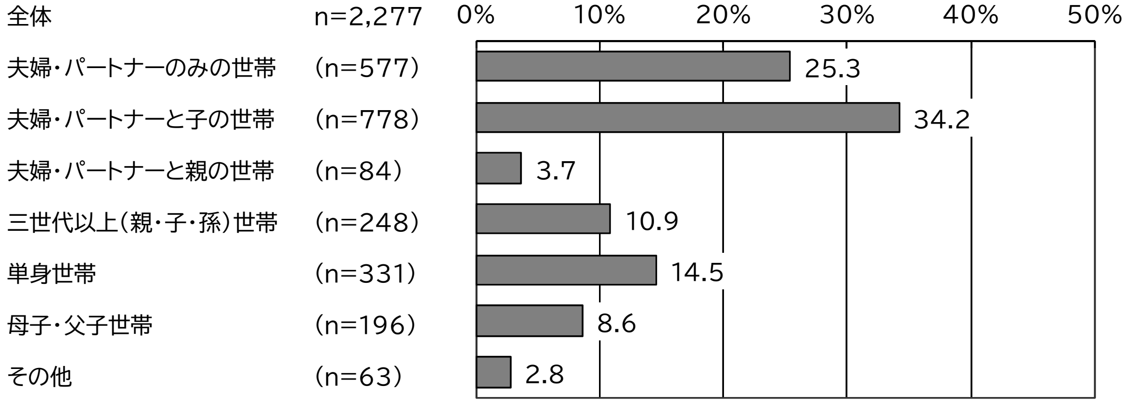
（４） 居住年数



（５） 就業地（通学地）



（６） 家族構成



（７） 居住小学校区

No.	校区	回答数	%
1	岩田	80	3.7
2	豊	39	1.8
3	東田	59	2.7
4	旭	26	1.2
5	八町	28	1.3
6	松葉	33	1.5
7	松山	36	1.7
8	新川	34	1.6
9	向山	37	1.7
10	花田	51	2.4
11	羽根井	49	2.3
12	下地	29	1.4
13	大村	16	0.7
14	津田	26	1.2
15	吉田方	84	3.9
16	牟呂	68	3.2
17	汐田	45	2.1
18	高師	63	2.9
19	芦原	46	2.1
20	福岡	75	3.5
21	中野	50	2.3
22	栄	77	3.6
23	磯辺	68	3.2
24	大崎	26	1.2
25	植田	31	1.4
26	野依	33	1.5

No.	校区	回答数	%
27	大清水	33	1.5
28	富士見	39	1.8
29	牛川	38	1.8
30	鷹丘	79	3.7
31	下条	24	1.1
32	多米	57	2.7
33	岩西	47	2.2
34	つつじが丘	46	2.1
35	飯村	54	2.5
36	天伯	33	1.5
37	幸	80	3.7
38	前芝	25	1.2
39	石巻	28	1.3
40	西郷	22	1.0
41	玉川	29	1.4
42	嵩山	27	1.3
43	賀茂	31	1.4
44	二川	45	2.1
45	二川南	47	2.2
46	谷川	17	0.8
47	小沢	26	1.2
48	細谷	18	0.8
49	高根・豊南	43	2.0
50	老津	23	1.1
51	杉山	26	1.2
合計（有効回答数）		2,146	100.0